

第三章 災害と河川改修

第一節 災害

一、水とのたたかい

大山の畑地方や、滝ノ宮の上の台地、あるいは引野の宮カ谷あたりの山麓高台からは、縄文早期のナイフ形石器をはじめ、石鏃などが出土し、歴史以前に人びとがこの日当たりのよい、水の綺麗な阿讃山麓南斜面の高台を生活の本拠として、狩猟を中心とする採集生活に日々を送っていたことを物語っている。原始の祖先たちがこうした自然状態に近い生活をしてきた時代には、阿讃の山々には原始林が生い茂り、水源の山地には強い涵水能力があつて、ある程度の大雨もここで緩衝されたであろうし、たとえ河川が洪水になつても、これらの人々の生活には、直接被害を受けることは少なかったと思われる。

ところが弥生期になると、水田耕作が発達し、人口が増加し、人びとは農耕に適する低地を求めて移動し、平野部に集落が形成されるようになる。その後歴史時代に入ると、木材や薪炭の需要が増大し、山林が伐採され、さらに肥料用として山林の下草までが刈り取られるようになる。水源地の保水能力は次第に低下して、大雨があれば河川は洪水となって氾濫し、人畜や住居・田畑に被害を与え、人びとと水とのたたかいが繰り返えされるようになった。

とくに上板地方では、藩政時代後期から砂糖の製造がさかんに行なわれるようになって、家庭用の薪・木炭の外に、大量の松材が製糖用樵木として伐採され、阿讃山脈南斜面の特有の扇状地形成や、河川の氾濫に一層の拍車をかけることになったのであろう。

天災は忘れたところにやってくる——とは、昔からよく言われる言葉である。人びとの生活をおびやかす災害には、地震・旱害・疫病の流行などがあり、また火災や不慮の事故などあるが、これらの災害は何年かに一度、あるいは何十年かに一度という割合で、偶然に訪れるものが多く、その時の疵の痛みがなあって、つい油断していると、また同じ苦しみ遭遇するという戒めである。ところが上板地方の場合、水による災害だけは例外で、毎年毎年、時には年に二度三度と、前回の復旧も完了しないうちにやってきて、低地部の人びとの生活を破壊しつづけてきた。

南に大河吉野川を擁し、町平担部の真ん中には西から東に貫流する尻窄みの奇形川、富川内谷川を抱える当町では、歴史的にこの二つの河川の水の暴威は、最大の、しかも深刻な被害を与え、流域の村々の長い歴史のなかで、災害の復旧や防災のための工事が行なわれない年は一年としてなかった。

こうした自然の暴威の前に、人びとはこの地に生を享けた者の宿命と諦めながらも、何とかして、この被害を少しでも防ごうとする努力を長い間続けてきた。祖先たちの涙ぐましい水とのたたかいの歴史は、そのままが上板町の歴史と云つてよい。しかし明治以降、幾多の変遷を経ながらも、吉野川は国直轄事業として逐次改修が進めら

れ、宮川内谷川も昭和になってようやく本格的な改修工事を完了し、長かった水とのたたかいの歴史は、いまようやく終わった。人々の英知とたゆまぬ努力は、ついに水の猛威をコントロールすることに成功し、私たちの生活は、この両河川の水害からいま解放されようとしている。

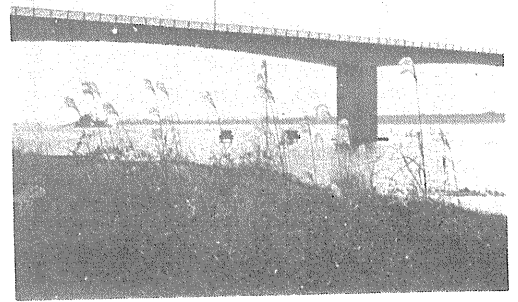
二、主要災害年表

(資料) 徳島県災異誌、徳島県史、徳島県史料年表、吉野川(国土開発調査会編)、松島町誌(児島忠平著)、松島、大山、高志村会議事録、上板町決算書付属書類、その他。

(注) 藩政時代の月日は、陰暦の月日である。また、直接当地方に関係ないと思われるものも参考までに記載した。

1、風水害

西暦	年月日	災害の概要
一五七九	天正 七・八・一	大雨三日続く、洪水により家畜多数水死
一五八二	天正一〇・九・五	大雨により吉野川大洪水、土佐の長宗我部元親の軍勢が勝瑞城の三好存保を包圍攻撃中であつたが、吉野川の洪水に経験のない長宗我部軍はこの大水に大混乱を呈したと伝えられている
一六一五	元和 元・四・二七	暴風雨、蜂須賀至鎮大坂出陣に際し、暴風雨のため、一時淡路島南方沖合の沼島に避難したと伝える
一六四二	寛永一九・夏	長雨が続き全国的不作となつた
一六六二	寛文 二・六・二九	大風雨、各地に洪水



吉野川

災害と河川改修

一六七四	延宝 二・八・一七	大風雨と高潮、四国、九州に被害甚大
一六七八	延宝 六・八・五	大雨のため四国、九州の各地に水害あり
一六八七	貞享 四・九・九	大風雨、洪水
一七〇一	元禄一四・八・一七	三昼夜大雨続き吉野川大洪水、舞中島(現穴吹町の内)の全戸流失
一七一〇	宝永 七・七・二六	大風雨と高潮、海岸地帯の稲作全滅、この年全般的に凶作となり、秋の年貢が免除された
一七二一	享保 六・八・一〇	風雨五日間続く、吉野川をはじめ大小の河川氾濫し、流失家屋九九軒、水死者男八人、女一人
一七二二	享保 七・六・二三	馬三〇頭、牛六八頭水死、九万〇、〇五五石余減収となる
"	" 七・一〇	大風雨・洪水、家屋損壊三一軒、水死者一名、水死牛馬六頭、八万三、三七五石余減収
"	" 八・二三	大風雨・洪水、潰家四〇棟、死者二名、水死牛馬三頭、五万三、六一〇石余減収
一七二八	享保一三・八・四	風雨洪水、潰家九三軒、水死者男二人、女一人
一七二九	享保一四・九・一四	風雨、高潮、稲作に被害甚大
一七三二	享保一六・八・一〇	大風雨・洪水、一七万四、三七〇石余減収
一七三八	元文 三・六・二六	大風雨・洪水、吉野川氾濫、死者一人、牛六頭水死、七万三、四九五石減収
一七三九	元文 四・八・五	大風雨、洪水、死者男四人、女四人、馬一頭水死、九万七、九五四石余減収
一七四一	寛保 元・七・二一	風雨、洪水、九万〇、二六九石余減収
一七四六	延享 三・八・二四	風雨、洪水、五万六、三一八石余減収
一七五六	宝暦 六・九・五	風雨、洪水、死者男五人、女六人、家屋流失一一八軒、倒壊四一七軒、三万二、〇〇七石減収
一七五七	宝暦 七・七・二六	大風雨、洪水、板野郡の全村水害のため御蔵・給知とも秋の年貢は免除された、九万二、一四〇石減収
一七六四	明和 元・八・二	風雨、洪水、六万三、二八八石余減収
一七六五	明和 二・四・一六	風雨、洪水、五万七、四三五石余減収
"	" 六・二六	風雨、洪水、五万九、六五一石減収
"	" 八・二	風雨、洪水、河川氾濫し農作物に被害大、一一万九、六二八石余減収、この年の大水を「西の

災害と河川改修

一七七二	安永 元・八・二〇	年の大水」という
一七七四	安永 三・六・二三	風雨、洪水、死者八六六、家屋の流失七〇軒、牛馬水死三二頭、二万七、九八一石減収
〃	九・一	二日間風雨続き洪水、二万八、九三五石減収
一七七五	安永 四・七・三	風雨洪水、三万〇、六三四石減収
一七七八	安永 七・八・八	三日間雨続き洪水、四万三、九〇〇石減収
一七八一	天明 元・七・二七	大風雨、洪水、八万〇、一六四石減収、「丑年の洪水」という
一七八二	天明 二・五・五	大雨、洪水、八万七、七五七石減収
一七八五	天明 五・七・一一	大風雨洪水、吉野川、勝浦川、鮎喰川など氾濫、一万〇、〇六一石減収
一七八六	天明 六・八・二九	大風雨、洪水、一三万七、五六七石減収
一七八七	天明 七・四・二五	三月より長雨があり、四月二十五日大雨となる、大洪水、吉野川下流域に被害甚大
一七九二	寛政 四・七・二六	大雨、洪水、板野郡に水害大、この年秋祭取止めとなる
一七九五	寛政 七・七・八	大風雨、洪水、一三万一、六〇〇石減収
一七九八	寛政一〇・五・二六	大雨、出水、農作物に被害大
一八〇一	享和 元・八・一九	二日間大雨続く、那賀川流域に被害甚大
一八〇四	文化 元・七・二六	大風雨、洪水、死者男五人、女三人、水死馬一一頭、牛七頭、七万九、〇〇〇石減収
〃	八・二九	大風雨、洪水、死者男一人、女一人、水死馬七頭、牛二頭、六万六、〇八三石減収
一八〇八	文化 五・六・二九	風雨、一七四石減収
一八一二	文化 九・九・一	風雨、洪水、三万七、六〇〇石減収
一八一五	文化 二・七・六	風雨三日間続く、洪水、死者二人、水死馬二頭、五万五、九三九石減収
一八一六	文化 三・八・三	風雨、洪水、死者男九人、一六万三、二二二石減収、板野郡沿岸地帯は高潮により稲の大半が立枯となった
一八一七	文化 四・九・九	風雨洪水、二万七、三三〇石減収
一八一八	文政 元・七・二四	風雨出水、一万二、二二六石減収
一八二一	文政 四・八・八	大風雨、洪水、六万八、六六四石減収

一八二五	文政 八・八・二四	大雨、洪水
一八二六	文政 九・五・二一	五月二十一日及び六月六日風雨、六万七、八三五石減収
一八二八	文政 一一・八・二〇	八月十日及び八月二十三日風雨、九万〇、二二三石減収
一八二九	文政 一二・七・二六	十六日より三日間暴風雨、洪水、死者男三人、女二人、八万七、二七三石減収、「丑年の大流れ」という
一八三二	天保 三・九・一一	風雨、出水、一万七、四〇四石減収
一八三四	天保 五・八・六	大風雨、洪水、六万九、五九八石減収
一八三五	天保 六・五・一五	風雨、洪水、三万九、二八〇石減収
一八三六	天保 七・七・七	二日間暴風雨、洪水、死者二名、五万三、三六八石減収
一八三八	天保 九・七・二一	風雨、洪水、死者男三人女四人、三万一、九八七石減収
一八四三	天保 一四・七・七	七月五日より三日間豪雨、大洪水、吉野川の堤防決壊して大災害となった、「七夕水」という
一八四七	弘化 四・七・二三	大風雨、吉野川大洪水
一八四九	嘉永 二・七・二〇	四日間大雨続き大小の河川氾濫、板野郡内家屋の流失五六軒、「酉の水」又は「阿房水」という
一八五〇	嘉永 三・九・二	大風雨、洪水
一八五五	安政 二・八・二〇	大風雨、洪水、家屋・農地に被害大
一八五六	安政 三・八・一	大風雨、洪水、とくに勝浦川沿岸に被害甚大、この年の大水を「八朔水」という
一八五七	安政 四・七・一	暴風雨、家屋の倒壊、怪我人多数あり
一八六〇	万延 元・五・二六	大雨六日間連続し大洪水となる
〃	七・二一	大風雨、洪水、高潮による被害あり
一八六三	文久 三・八・二二	豪雨、洪水、板野郡板東地方谷川の氾濫のため田畑に被害大
一八六六	慶応 二・八・七	八月一日より七日間大雨続き大洪水となる、諸河川氾濫し、農作物および人畜にも被害甚大、「寅の大水」という
一八七〇	明治 三・九・九	暴風雨、吉野川、鮎喰川氾濫し大洪水となる
一八七一	明治 四・六・一	暴風雨、吉野川大洪水
一八七三	明治 六・一〇・三	大雨により吉野川大洪水

災害と河川改修

一八九九	明治三二	八・二八	暴風雨
"	"	九・八	台風和歌山に上陸、県下に豪雨あり。宮川内谷川の堤防決壊延長一、八二〇メートル、家屋の全半壊一戸、四七名が罹災救助を受けた
一九〇〇	明治三三	七・二八	暴風豪雨、河川洪水、宮川内谷川堤防決壊（引野門田より七条角地に至る間で決壊）
一九〇二	明治三五	九・七	台風、剣山南麓で三〇〇ミリの降雨あり。上板地方洪水被害大、恩賜金、義捐金の交付を受けた
一九〇四	明治三七	八・三一	台風三十一日に室戸岬に上陸、本県内を通過して豪雨を降らせた
一九〇七	明治四〇	八・二四	三日間連続豪雨。吉野川、宮川内谷川堤防決壊数カ所。県下の死者一九人、家屋の全壊・流失三六〇戸、床上浸水一〇、四一戸
一九一一	明治四四	八・一五	暴風雨、「土佐水」。吉野川上流地域で豪雨あり吉野川氾濫する。宮川内谷川引野入戸で堤防決壊五五メートル、七条粟飯久保で堤防決壊三六メートル、瀬部、元原、古町、北高瀬など大洪水。田畑冠水三〇町歩、収穫皆無二〇町歩、罹災者五〇〇人
一九一二	明治四五	九・二三	台風・豪雨。吉野川、宮川内谷川氾濫、宮川内谷川堤防決壊延長七七メートル、田畑冠水一〇〇町歩、家屋倒壊一八棟、流失六棟、死者三人・牛馬水死三頭
一九一五	大正四	八・五	豪雨。宮川内谷川堤防七カ所決壊、延長五二メートル、流失家屋一棟、七条仁界に被害大、田畑冠水二〇〇町歩
一九一七	大正六	一〇・一〇	台風、宮川内谷川氾濫、松島、大山、松坂村などに被害甚大、田畑冠水一、五〇〇町歩。損害約六〇万円
一九一八	大正七	九・一四	大雨、吉野川、宮川内谷川洪水
一九一九	大正八	四・二五	豪雨、宮川内谷川堤防決壊
一九二二	大正一一	九・一五	暴風雨、宮川内谷川左岸堤防七条にて決壊、延長五五メートル。松島、大山、松坂村に被害大、損害見積額三三万二、六五〇円
一九二六	大正一五	七・七	豪雨、宮川内谷川氾濫、堤防決壊三カ所、延長二三六メートル。田畑冠水三五〇町歩、日吉橋七条橋、正念寺橋流失
一九二八	昭和三	八・三〇	台風豊後水道を北上、吉野川、那賀川氾濫。家屋、橋梁、堤防、農作物に被害大

一八七八	明治一	九・七	大風雨、那賀川堤防決壊、被害大
一八八〇	明治一三	八・二五	四国地方、大風雨
一八八二	明治一五	八・五	暴風雨、洪水。徳島市内道路上水嵩八尺
一八八三	明治一六	九・一〇	大風雨、水稲に被害大
一八八四	明治一七	六・二八	暴風雨、吉野川洪水、高瀬渡下流で堤防決壊
"	"	八・二六	暴風雨、大洪水、県下死者一六名、牛馬水死三頭、家屋倒壊一四五軒、田被害七二町歩、畑三二町歩
一八八五	明治一八	五・一	長雨、吉野川、鮎喰川、勝浦川大洪水
一八八六	明治一九	九・一一	暴風雨、吉野川氾濫、死者六人、七条にて宮川内谷川堤防決壊、農地被害大
一八八八	明治二一	七・二二	豪雨大洪水。阿波郡知恵島及び板野郡西条、名西郡西覚円などで吉野川堤防決壊、家屋流失一八八戸、死者二六人、宮川内谷川も氾濫し、瀬部・高瀬などに大被害
一八九〇	明治二三	九・一一	暴風雨、吉野川洪水、県下の被害、家屋全壊八七戸、とくに名東郡に被害大
一八九一	明治二四	八・一六	台風四国中部を北上、出水被害あり
一八九二	明治二五	七・二三	台風による洪水、高瀬、雨四日間続き山間部に山崩れ、平地部に洪水の被害あり、県下の死者三十一名、家屋の流失六四四軒、田畑・道路などに被害甚大
一八九三	明治二六	一〇・一四	暴風雨、各河川洪水、十二日、十五日の雨量、徳島で二五七ミリ、鴨島三四〇ミリ、穴吹二七五ミリ
一八九四	明治二七	九・一一	台風、豪雨。徳島で六時から一四時までに二八〇ミリの降雨あり
一八九五	明治二八	八・二三	台風大雨、那賀川洪水、被害大
一八九六	明治二九	八・一九	台風、とくに板野郡に被害大
"	"	九・一一	台風、大雨、洪水
一八九七	明治三〇	九・二九	台風による大雨、吉野川流域の降雨量三六〇ミリ、高志村下六条において修理中の水門破損、下六条・佐藤塚においても堤防決壊三二八メートル、そのため家屋流失一三軒、死者一人、二〇町歩の水田が砂丘状態になった。恩賜金を賜わる
一八九九	明治三二	七・八	暴風雨、吉野川上流地区に降雨多く、吉野川堤防決壊被害甚大

災害と河川改修

西暦	年月日	災害概要
一九四五	昭和二〇・九・一七	大型台風(枕崎台風)西日本に特に被害甚大。全国での死者二、四七三人、行方不明一、二八三人。吉野川をはじめ各河川大洪水。徳島県下の被害状況、死者四四人、行方不明三人、負傷一八人、家屋全壊一、一六六戸、半壊一、四一七戸、流失六〇戸、床上浸水一、五三六戸、堤防決壊四カ所、田畑浸水三、二七五ヘクタール、吉野川は計画高水流量を上回る出水であった。阿久根台風、鹿児島県阿久根町に上陸(同所での気圧九六三・七ミリバール)、日本列島を縦断したため各地に大きい被害を与えた。
"	" 一〇・一〇	徳島県下の被害状況、死者五人、行方不明三人、家屋全壊四三戸、半壊二二戸、床上浸水一、一四戸、床下浸水四、五二戸、堤防決壊九カ所、田畑流失一六〇ヘクタール、田畑浸水一一、六六四ヘクタール。
一九四六	昭和二二・七・二九	台風が豊後水道を北上、各地に豪雨を降らせた、県下の被害状況、死者一人、行方不明一人、家屋全壊三二戸、流失三戸、半壊二五戸、水田冠水二、七五六ヘクタール、畑浸水一五五ヘクタール。
"	" 一二・二二	南海大地震、震源地は潮岬南方五〇キロ、津波により被害を拡大した、徳島市で震度5(水平動)橋、日和佐、牟岐などで地震後二〇分〜三〇分まで津波が来襲した、県下の死者二〇二名、行方不明二五八名、家屋全壊六〇二戸、半壊九一四戸、板野郡では死者、行方不明合わせて一五名、傷者六名、家屋全壊七七戸、半壊三二戸、吉野川下流部一帯の地盤沈下がみられた。
一九四九	昭和二四・七・三〇	台風(ヘスター、三重県)に上陸、台風の勢力は中型であったが、県西部(半田町中心)に集中豪雨をもたらした、床上浸水二一六戸、床下浸水七六七戸、田流埋二一九ヘクタール、田冠水五三一ヘクタールなどの被害を出した。
一九五〇	昭和二五・九・三	ジェーン台風(中型・雨)大阪湾に上陸、四国・近畿・中部地方に被害甚大、全国の被害状況死者三九八名、行方不明一四一名、徳島では三日の一〇時〜一四時の間に八六・九ミリの強雨が降り、同時に北北西の風二九・二メートルの風速を記録した、県下の被害状況、死者二八人、

戦後の風水害

西暦	年月日	災害概要
一九二九	昭和四・八・一五	台風徳島県の東岸沿いに北上、豪雨による洪水あり。
一九三一	昭和六・九・二六	台風、県南地方に豪雨。
一九三三	昭和八・八・三	台風、県南山間部に豪雨。
一九三四	昭和九・九・二一	室戸台風、全国的に被害を与えた大型台風で、板野郡内でも死者三名、負傷者三〇名、家屋全壊三五六戸、流失二五戸、床上浸水一、六四四戸、最低気圧九四二・一ミリバール、最大瞬間風速四四・〇メートル。
"	" 一〇・二〇	中型台風、県下被害僅少。
一九三五	昭和一〇・八・二八	台風、吉野川氾濫、県下の被害状況、死者二人、行方不明三名、家屋全壊一六戸、半壊二九戸。
一九三七	昭和一二・九・一一	台風豪雨、吉野川および宮川内谷川氾濫。
一九三八	昭和一三・九・五	台風豪雨、吉野川洪水、宮川内谷川堤防決壊六カ所、橋梁流失三、家屋全壊四戸、半壊一戸、流失二戸、死者一人、床上下浸水一二八戸、泉谷林道崩壊延長一、〇〇〇メートル。
一九四〇	昭和一五・九・一一	台風、水稲に被害あり。
一九四一	昭和一六・八・二五	台風豪雨、室戸の気圧七二四ミリ、山間部の雨量四〇〇ミリ以上、宮川内谷川左岸決壊、田畑冠水面積五〇町歩。
一九四三	昭和一八・七・二四	台風豪雨、各河川氾濫、県下の被害、家屋全壊一戸、床上浸水一六戸、田畑浸水四、五八七町歩。
一九四四	昭和一九・九・二〇	台風、九州・中国・四国に被害大。本県の被害田畑冠水二、四〇〇町歩。
"	" 九・二七	台風、徳島市の気圧七三六・九ミリメートル、被害は比較的軽微。

(注) 昭和二十一年(一九四六)から気圧の単位がミリメートルからミリバールに変更された。数値関係は次表のとおりである。

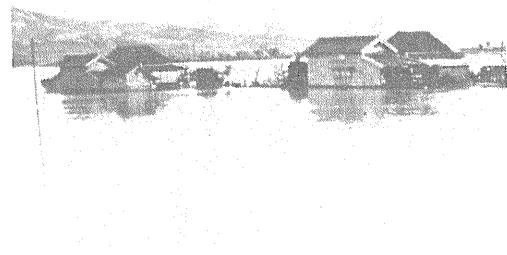
mm	mb
七六〇	一、〇三三
七五五	一、〇二七
七五〇	一、〇二〇
七四五	一、〇一四
七四〇	一、〇〇七
七三五	一、〇〇〇
七三〇	九九三
七二五	九八七
七二〇	九八〇
七一五	九七三
七一〇	九六七
七〇五	九六〇
七〇〇	九五三
六九五	九四七
六九〇	九四〇
六八五	九三三

一気圧……零度(°C)における水銀柱の高さ七六〇ミリメートルの圧力一、〇一三ミリバール

災害と河川改修

一九五四	昭和二九・九・一八	台風一四号、中型台風、県下の被害は軽微で、冠水田二〇ヘクタール 台風一五号(洞爺丸台風)大型台風で四国及び北海道に大きな被害を与えた、特に函館港では連絡船洞爺丸が沈没し大惨事となった、全国での死者一、三六一人行方不明四〇〇人、家屋の全半壊の計は二九、七七六戸、家屋流失三九一戸、県下の冠水田八三四ヘクタール、冠水畑九二ヘクタール、山崩二二カ所、被害額一〇億円以上
一九五四	昭和二九・九・一八	川はじめ各河川大洪水となり、各地に大きな被害を与えた、県下の被害、死者二人、冠水田四、二八九ヘクタール、冠水畑二、〇一二ヘクタール。堤防六三カ所が決壊した
一九五七	昭和三二・八・二〇	台風一五号、中型台風で四国沖合を通過、県南部に豪雨を降らせ、那賀川流域に被害大、県下の冠水田一、二三四ヘクタール
一九五八	昭和三三・八・二五	台風七号、九州西方を通過、豪雨を伴い特に三繩村(現、三好郡池田町内)に被害が大きかったが、その他の被害は比較的軽微であった
一九五九	昭和三四・九・二六	台風一七号、紀伊水道から和歌山県に上陸した台風で、大雨を伴い、三重県、愛知県に被害が大きかったが、本県の被害は軽微であった
一九六〇	昭和三五・五・二四	台風一五号(伊勢湾台風)大型の台風で、とくに愛知県下に甚大な被害を与えた。全国での死者は四、七五九人(内名古屋三、〇〇〇人)。徳島県下の被害状況、死者四名、行方不明一名、傷者二四名、家屋全壊二五戸、半壊三七戸、水田の冠水二、九〇七ヘクタール、畑冠水二六四ヘクタール、その他交通、通信に大被害を与えた、九月二十八日上板町仁界地区に災害救助法が発令された
		チリ大地震・津波、被害は太平洋岸一帯、全国での死者一一九人、行方不明二〇人、家屋全壊一、五七一戸、半壊二、一八三戸、流失一、二五九戸、徳島県では桶町(阿南市)が最大の被害を受け、全町の五〇%が床上浸水し、災害救助法が発令された、被害総額七億四、〇〇〇万円

一九五〇	昭和二五・九・二三	行方不明一〇人、傷者二八二人、堤防決壊二二五カ所、家屋全壊四五戸、半壊二、一三八戸、田畑流理二三一ヘクタール、冠水田畑一三、六三八ヘクタール、水稲被害面積一六、九五〇ヘクタールで、これは水田全体の六〇・三%に相当した。町内では宮川内谷川が氾濫した、また泉谷川の出水により前谷橋が流失した
一九五三	昭和二八・九・二五	キシア台風、この台風は九州内陸を縦断して日本海に抜けた、徳島県下の被害状況、死者四名、行方不明一人、傷者二四人、家屋流失二戸、全壊四〇戸、半壊一六八戸、堤防決壊一九カ所、橋流失四四、田冠水三、六三三ヘクタール、畑冠水一、八三一ヘクタール
一九五四	昭和二九・九・七	台風ルース(一五号)鹿児島に上陸広島方面へ抜けた大型台風で、全国での死者五七二人、行方不明三七一人に達した、県下では三好郡の山間部で突風による被害が大きかった、死者一〇人、家屋全壊三五〇戸、半壊一、三九〇戸、堤防決壊一二〇カ所、橋の流失五二、田畑の冠水四、三九八ヘクタール
一九五五	昭和二六・一〇・一四	台風一三号、徳島での最低気圧九八三・四ミリバール、最大風速三二・五メートル、県下各河川大洪水、とくに板野郡に被害が大きく、宮川内谷川の堤防決壊一〇カ所、一条姥御前から高志村および七条方面に被害甚大、損害約五億円、災害救助法発動される
一九五五	昭和二九・九・七	台風一三号(キヤシー)中型台風、九州西岸を北上、豪雨により冠水田二四八ヘクタール、畑一四二ヘクタール
一九五五	昭和二九・九・七	台風二二号、大型台風で豪雨をとめない、進行速度が遅かったため暴風雨の時間が長く、吉野



昭和25.9.3 ジェーン台風による洪水
七条仁界地区
宮川内谷川堤防上より北に向って

災害と河川改修

一九六六	昭和四一・	八・二三
一九六八	昭和四三・	二・二五
一九七〇	昭和四五・	八・一四
一九七二	昭和四七・	九・九
一九七四	昭和四九・	七・六
一九七五	昭和五〇・	八・一七
〃	〃	八・二三

台風一五号、災害程度軽微
 豪雪、池田町で積雪五五センチ、上板町内二〇センチ、電灯線、通信線の切断多く、山林の立木、果樹、ビニールハウス等に被害甚大
 台風九号、阿讃山脈に集中豪雨あり、板野、鳴門、徳島を中心に被害大、県下被害総額七億五〇〇〇万円、床上浸水一〇五戸、床下浸水一、一二六戸、田冠水二二六ヘクタール
 台風一〇号、高知県に上陸、県下各河川洪水、県下の被害、死者六人、家屋全壊一九戸、半壊四五戸、流失二戸、田冠水一、七三九ヘクタール、畑冠水三七二ヘクタール、罹災世帯数四七五戸、被害総額三八億八、九三二万円
 豪雨、八日九日の両日、県下の床上浸水八九四戸、床下浸水九、七四七戸、田冠水四八八ヘクタール、畑冠水二七六ヘクタール
 台風八号、県下東海岸部に被害大、床上浸水八七戸
 台風一八号、豪雨により吉野川洪水警報発令される。県下被害、家屋全壊一二戸、流失四戸、床上浸水七〇八戸、床下浸水五、六七九戸、田冠水一、一七一ヘクタール、畑冠水五六四ヘクタール
 台風五号、高知県宿毛市付近に上陸、県南山間部で三〇〇〜五〇〇ミリの降雨があった、国道、県道の七カ所で土砂崩れあり
 台風六号、徳島県東岸を北上、神戸市西方に上陸、県下に記録的豪雨を降らせた、河川の氾濫山崩れなど多発、県内の被害、死者一五人、行方不明一名、家屋全壊七二戸、半壊一二二戸、床上浸水一、四八二戸、床下浸水九、〇三三戸、田冠水三、二九二ヘクタール、畑冠水一、二



昭和47年9月9日
 豪雨による洪水（瀬部地区）

一九六〇	昭和三五・	八・二九
一九六一	昭和三六・	九・一六
〃	〃	一〇・二七
一九六二	昭和三七・	四・二二
一九六三	昭和三八・	六・一四
〃	〃	八・一〇
一九六四	昭和三九・	九・二五
一九六五	昭和四〇・	九・一〇
〃	〃	九・一六

台風一六号、中型台風、県下各河川洪水となり、家屋全壊七戸、半壊一七戸、冠水田六〇六ヘクタール、冠水畑一〇四ヘクタール
 台風一八号（第二室戸台風）高知県室戸に上陸した台風は本県東部を北上して阪神間に抜けた超大型台風で室戸で最大瞬間風速八四・六メートル（本県二七・六メートル）を記録し、徳島県での最低気圧は九三五・二ミリバールでこれは徳島地方気象台始まって以来の記録であった県下の被害、死者一人、負傷二五三人、家屋の全壊五六九戸、流失五三三戸、半壊一、七七七戸、床上浸水二五、三三三戸、四市二一町村に災害救助法が発令された、県下の被害総額一億四、五〇〇万円、町内では宮川内谷川堤防決壊延長一四〇メートル、泉谷川堤防決壊五〇メートル、床上浸水一〇〇戸、被害総額約五億円
 集中豪雨、宮川内谷川氾濫、洪水により刈取後の干架の稲架が多量に流失した、徳島・小松島上板町に災害救助法が発令された、上板町内の被害、家屋全壊一戸、半壊二戸、床上浸水一七七戸、床下浸水三〇〇戸、被災人口三、九三四人
 降雹被害、西日本各地に降雹があった、本県では十六時すぎ阿波、板野両郡一帯で直径一〇ミリの程度の雹が約二〇分間降り、煙草、桑、果樹に被害
 徳島県下に集中豪雨、県下諸河川洪水
 台風九号、被害軽微
 台風二〇号、河川洪水、県内死者五人、家屋全壊三〇戸、田冠水一、四一〇ヘクタール、畑冠水一、二一八ヘクタール
 台風二三号、高知県安芸郡に上陸し徳島県の中央部を横断した、徳島市内で最大瞬間風速六七メートル（徳島気象台開設以来の強風）を記録した、県内の被害、死者五人、行方不明一人、負傷六一人、家屋全壊二六三戸、半壊五七二戸、田冠水一、四九五ヘクタール、畑冠水九四二ヘクタール
 台風二四号、紀伊半島南海上より志摩半島に上陸、徳島県下は集中豪雨に見舞われた。宮川内谷川氾濫、町内の被害は水田冠水八〇ヘクタール、家屋浸水二六戸、被災者一二五人。相次ぐ台風災害により上板町には災害救助法が発令された

災害と河川改修

西暦	年号	主 要 事 項
一六七四	延宝 二	この年、阿波国は暴風雨と高潮などのため凶作となり、那賀郡の飢饉は最も深刻であった。京畿地方でも飢饉となり、翌年には死者が道にあふれたという。
一六八〇	延宝 八	暴風雨、洪水、厳寒などが続き、凶作のため穀価騰貴して窮民の餓死者が多数あった。
一六八二	天和 二	数年来の打ち続く不作のため、飢饉は全国に波及した。
一七一〇	宝永 七	七月二十六日大暴風雨あり、高潮のため海岸地帯の稲作は全滅となり、他の地域においても大凶作となり、飢饉のためこの年秋の年貢は御免となった。
一七一一	宝永 八	那賀郡はこの年も不作となり飢饉は深刻となった。
一七三二	享保 一七	享保十三年ごろより毎年暴風雨・洪水などが続き、十七年秋にはウシカが大発生し、凶作に追い打ちをかけた、四国・中国・九州地方は大飢饉となり、米価は平時の二倍半から三倍に高騰し、餓死者は数千人にのぼった、米価の高騰は、翌年江戸の「打ちこわし」を誘発した。
一七七〇	明和 七	「享保の飢饉」と呼ばれ、後世三大飢饉の一つに数えられる。
一七八五	天明 五	五月より三ヶ月間大旱魃が続いた、稲は枯れ、収穫皆無の所が多かった、数年来の不作続きのうえこの旱魃で、百姓は窮乏を極め、拝借米を歎願して、一時をしのいだが、飢饉は翌八年も続いた「明和の飢饉」という天明元年以来毎年風水害、冷害、疫病の流行などが打ち続き、さらにこの年七月十一日大暴風雨・洪水があり、飢饉となった。
一七八七	天明 七	三月より長雨が降り続き、四月二十五日には豪雨があり大洪水となった。数年来打ち続く不作の上に決定的打撃を受けて大飢饉を招来した、諸物価は高騰し、飢饉は全国に拡大され、多数の餓死者がでた。江戸をはじめ全国各地で庶民の「打ちこわし」が頻発した、この飢饉を「天明の飢饉」という。
一八三七	天保 八	天明九年、元号を「寛政」と改元したが、当時の狂歌に次のようにうたわれた 「天明に食うや食わずに八・九年、もうこれからは長う食わんせ（寛政）」 天保三年夏干害、秋風水害、冬は風邪が流行、天保四年には秋風水害、虫害、五年、六年風水害、七年には長雨、冷害、ツマガロヨコバイの大発生、天保八年春長雨、夏旱魃、秋風水害と、数年来凶作が打ち続き、農民は全く疲弊の極に達し、諸国大飢饉となった、阿波国でも窮乏は甚しく、木の葉を摘み、木の実を拾い曼珠沙華の根を掘って食い、草の根を噛んでわずかに命をつないだというが、餓死者は村にあふれた。これ

2、飢 饉

西暦	年号	主 要 事 項
一三六三	正平 一八	阿波国大飢饉、餓死者多数（日本凶荒史考）
一四六〇	寛正 元	干害、風水害などの連続によって諸国飢饉となる
一六四二	寛永 一九	長雨が降り続き冷害が加わり、諸国大凶作となった。四国、九州、東北、北陸地方は大飢饉、殊に北陸地方では三年來の不作続きで餓死者多数にのぼり、惨状最も甚しかったという。
一九八〇	昭和五五・	一〇・一九
一九七九	昭和五四・	九・三〇
一九七六	昭和五一・	九・二二
〃	〃	一〇・一四

○一ヘクタール、堤防決壊一三カ所、山がけ崩れ多数
台風一七号、午前一時四十分長崎付近に上陸、その後日本海に出たが、県下に豪雨を降らせた
徳島での総雨量八二五ミリ、県下の被害、死者一〇人、負傷九人、家屋の全壊流失一八七戸、
半壊一〇三戸、床上浸水三、七七七戸、床下浸水一六、三七八戸、堤防決壊一四八カ所、耕地
の冠水三、九六二ヘクタール、町内では六条堤上流部の湛水被害大、災害救助法発動される、
被害激甚指定を受けた

台風一六号、三十日十八時室戸岬の西方に上陸、徳島、鳴門に被害大、県下死者一人、行方不明
一人、負傷九名、家屋全壊七戸、半壊一五戸、耕地の冠水三、四四二ヘクタール、道路損壊
九一ヶ所、農作物の被害額三億四、〇〇〇万円、町内においても強風による家屋の損傷甚大
台風二〇号、十九日九時四十分和歌山県白浜町に上陸、県南地方に集中豪雨、県下の被害、死
者一人、負傷三人、家屋浸水三二五戸、耕地冠水五二七ヘクタール、被害総額二億四億円
台風一三号、大型台風、十一日七時五十分鹿児島県大隅半島佐多岬に上陸、九州を縦断した、
中心気圧九六五ミリバール、徳島での最大瞬間風速三六・五メートルを記録、豪雨を伴った、
県下の被害、死者一人、傷者一人、家屋床下浸水一、〇七二戸、山崩れ三六カ所、農・林・水
産関係被害総額六億二億三、六〇〇万円
台風一九号、足摺岬の南一五〇キロの海上を東海道沖へ進んだ、総降雨量徳島で三二五ミリ、
県下の被害総額六億五、六〇〇万円

3、地震・津波

を「天保の飢饉」という、この年大塩平八郎の乱が起こり、また全国で「百姓一揆」が続発した
 享保の飢饉、天明の飢饉、天保の飢饉を「三大飢饉」という

西暦	年月日	災害概要
一六〇五	慶長 九・二二・一六	大地震・津波、四国の太平洋岸はとくに津波の被害が大きく、土佐と犬喰で死者三、八〇〇人
一七〇七	宝永 四・一〇・四	大地震・津波。津波は九州南東岸より伊豆までの間に大被害を与えた。犬喰浦では地震で家屋や倉庫が大被害を受け、さらに大津波によって多数が流失した。死者は男女計一人、漁船、漁具の類は残らず流失した、全国での死者は四、九〇〇人
一七八九	寛政 元・四・一六	土佐・阿波・備前・備中・備後・因幡等に強震があり、家屋・塀・道路などに大きな被害があったが、このときは津波による被害はなかった
一八二八	文政 一・一一・二三	夜、大地震があった
一八五四	嘉永 七・一一・四	大地震・津波。阿波国内の家屋の倒壊三千余戸、海岸諸村の津波による被害大きく、死者二〇〇人
一八五五	安政 二・一・一四	地震、被害状況などは不詳
一八五七	安政 四・一一・四	午後四時ごろ大地震あり、余震数日間に及ぶ、被害状況などは不詳
一八九一	明治 二四・一〇・二八	濃尾大地震、徳島県は被害ほとんどなし
一九〇五	明治 三八・六・二	安芸灘地震、広島県、愛媛県で家屋倒壊四八戸
一九〇九	明治 四二・六・一〇	震源地紀伊水道、徳島で震度 4
一九二二	大正 一一・九・一	関東大震災、東京、横浜に潰滅的被害をこうむった。死者五万九、五七三人、行方不明一万〇九〇四人、東京と横浜は焼野原となった
一九三三	大正 一一・九・一	災害は東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、山梨、茨城の一府六県にまたがり、被災者は三四〇万四、八九八人に達した
一九三四	昭和 九・一・九	震源地剣山北麓、徳島で震度 3、被害なし

災害と河川改修

一九四四	昭和 一九・一一・七	熊野灘地震、徳島で震度 4、被害軽微、熊野灘で震度 6、津波を伴った
一九四六	昭和 二一・一一・二二	南海大地震。震源地は潮岬南方五〇キロの海中、徳島で震度 5、建物・道路などに被害があった、県下の死者二〇二名、行方不明二五八名、家屋全壊六〇二戸、半壊九一四戸、吉野川下流一帯に地盤沈下が起こった
一九五五	昭和 三〇・七・二七	那賀川上流を中心に震度 5 の地震があった。死者一名、山崩れ、道路破損などの被害があった
一九六〇	昭和 三五・五・二四	チリ大地震、全国的に津波による被害が大きく、死者一一九人、行方不明二〇〇人の犠牲者が出た、徳島県では橘町で正常潮位から二・五〜二・九メートルも海面上昇し、全町の七五%が被災、このうち五〇%は床上浸水の被害を受けた、被害総額は七億四、〇〇〇万円で、災害救助法が発動された
一九六四	昭和 三九・六・一六	新潟地震、十三時一分、震源地は新潟県粟島付近、新潟県酒田地方で震度 5、被害は新潟市を中心に各地に及び、死者二九人、負傷者五一〇人、家屋全壊三、五五七戸、半壊一一、二三七戸、被害総額は二兆四、九〇〇億円にのぼった、この地震では石油タンクの火災による被害が特徴であった
一九六八	昭和 四三・四・一	日向灘地震、午前九時四十二分、震源地は日向灘の海底三〇キロメートル、九州東岸・四国・紀伊半島の沿岸で津波が起こった、宿毛震度 5、徳島・穴吹などで震度 3 であった、県下に被害なし
"	"	十勝沖地震、午前九時四十九分、震源地北海道襟裳岬の南々東約一五〇キロメートルの海底、青森・函館で震度 5、県下に被害なし
"	"	一時十七分、震源地は豊後水道、宇和島で震度 5、岡山・松山震度 4、徳島震度 3、県下被害なし
"	"	二十時四十五分、震源地徳島県西部、徳島・高知・高松で震度 3、大阪・奈良・震度 2、被害なし
一九六九	昭和 四四・三・二一	震源地紀伊水道、徳島震度 3、被害なし
一九七八	昭和 五三・一・二四	十二時二十四分、伊豆大島近海を震源地としてマグニチュード 7・0、伊豆大島で震度 5、静岡・東京で震度 4、全国の死者二五名、家屋全壊九六戸、半壊二四〇戸

4、山火事(上板町関係)

一九七八	昭和五三・ 六・二二	宮城県沖地震、午後五時十四分、マグニチュード7・4、仙台・福島で震度5、東京で4、全国での死者二八八、負傷一一、〇二八八、家屋全壊一、三八三戸、半壊六、二三八戸、県下に被害なし
一九八三	昭和五八・ 五・二六	正午ごろ、秋田沖を震源としてマグニチュード7・7、秋田県で震度5、東北地方の日本海側に大津波があった、秋田県男鹿半島で遠足の児童十三人が津波にのまれた、全国での死者一〇四人

西暦	年月日	災害概要
一九〇八	明治四一・ 一・ 一	泉谷・法蓮の段より出火、損害その他不詳
一九一〇	明治四三・ 一・ 一	泉谷、通称二の倉より出火、損害その他不詳
一九一三	大正二・ 一・ 一	泉谷、通称ゴンジャク付近より出火、詳細不明
一九一五	大正四・ 一・ 一	泉谷、通称カクレバタより出火、損害その他不詳
一九二七	昭和二・ 四・ 一	神宅字宮カ谷、三号、四号の山林十余町歩を焼失
一九三二	昭和七・ 一・ 一	泉谷三ツ谷より出火、上り山、法蓮、貞蔵受、多平受、中村受、常次受などを延焼した
一九三六	昭和一一・ 三・ 一	泉谷大嶽より出火、浦山、白茸(しらたけ)などを延焼した。焼失面積約一〇〇町歩
一九三九	昭和一四・ 八・一八	松坂村磯尾谷より出火、延焼して大山村大谷野山を焼失した
一九四〇	昭和一五・ 五・一六	朝八時過ぎ、泉谷上り山より出火、かくれ畑、ゴンジャクから神宅字西の口に燃え拡がり、さらに大山寺、黒岩神社付近を延焼し、午後には一部県境を越えて高松宮林署管内の国有林に燃え移り、また一方では松坂村の山林にまで燃え広がった。十七日、十八日も二日間燃え続け、十九日になってようやく鎮火した。被害面積約三〇〇ヘクタール、この山火事で大山寺の三重の塔が焼失し、また大山寺の伝説にまつわる有名な老木「義経の桜」や「一本杉」も焼失した 大山村では、昭和十四年、十五年の二度の山火事によって、「神宅財産区」区有山林造成への端緒ともなった(上板町史上巻一〇八三頁参照)

一九七〇	昭和四五・ 三・ 八	土成町高尾の山林内より出火、約十二時間にわたって引野宮カ谷、蔦谷など、現在の御所カントリークラブゴルフ場付近の山林約一〇〇ヘクタールを延焼した、原因は中学生の火の不始末からといわれた、一時、十数戸の山際に近い農家が類焼の危機に見舞われたが、幸いに被害はまぬがれた
一九八〇	昭和五五・ 二・一〇	正午すぎ、泉谷通称浦山より出火、異常乾燥発令中のことでたちまち四周に燃え拡がり、約二一・五ヘクタールを焼失した、地元民、消防団員、町職員などの決死の消火活動により大損害に至らずして鎮火した、延焼時間二十四時間、損害額は松・雑木など約八六〇万円
一九八二	昭和五七・ 二・一四	午後二時十五分ごろ、泉谷浦田の山裾より出火、松・雑木林など三ヘクタールを焼失し、午後七時ごろ鎮火した、焚火の不始末が原因
一九八二	昭和五七・ 四・一〇	午後二時四十分ごろ、引野字宮カ谷(通称明神山)の山林より出火、現場が平坦部から近距離であったため大被害に至らず鎮火された、被害面積約一三アール